



小児医療施設外来ボランティア活動「こども病院ボランボラコの会」2024年10月現在（ボラコ新聞17号）



病院	こども病院 A	こども病院 B	こども病院 C	こども病院 D	こども病院 E	こども病院 F
コロナ後の外来ボランティア復活状況	2023年9割 → 2024年現在10割	2023年5割 → 2024年現在10割	2023年8割 → 2024年現在10割	2023年7割 → 2024年現在10割	2023年9割 → 2024年現在10割	2023年7割 → 2024年現在9割
VOL登録数	73	130人	93	330	109人	174
外来活動内容	遊び相手 見守り 一時預かり 季節の壁画作成	ぬりえ・パズルなどあそびの提供と見守り。絵本読み聞かせ。ピアノ演奏活動。預かりやソーイング問い合わせ対応	おはなし会（読み聞かせ、手遊び、腹話術等）の開催、お絵描きあそび（紙アプリ操作）	案内・バギー車椅子の貸し出しや消毒・乗降専用利用時の介助 お子さんの短時間のお預かり 折り紙作品セットのご褒美プレゼント・	案内・巡回と、「あそび班」のぬりえシール貼りなどの提供、「クラフト班」による飾りつけ 外来班は案内や3フロアの巡回、おりがみプレゼント	案内：受診や入院に関わる案内 こども図書館：図書の貸出等 きょうだい見守り、遊びの支援。 お話会本の読み聞かせ 車椅子の清掃・点検
参加したボランティアの声	★いろいろな取り組みをきくことができた。他病院の活動を今後の自分たちの活動に活かしていきたい。これまで、一時預かりを行っていたが、預かり方法や対象など検討が必要	★患者ご家族を中心にボランティアは聞き役に徹し、「心を込めて」を意識して活動している。 ★他病院を見学することは難しいが、このようなオンラインでオンラインで話合えることは、今後の充実した活動につながると感じた	★活動日は一人で担当することが多いため迷うことも多い。他病院の外来ボラさんとの情報交換は有意義で、たくさんの仲間がいると実感でき嬉しかった。	他施設のボランティアグループの顔を見れて、活動内容を知ることが出来、刺激ももらった。 ★ボランティア活動では内容・対応の共通性はあるものの、それぞれ地域で独自性があることも分かった。 ★“防災時の対応”、“荷物の一時預かり”などについても意見交換をしたい。	★どこも同じように試行錯誤しながらやっていることを知れた ★他病院の活動が参考になった ★ネグレクトの対応が確立していた。当院の参考になった	★全国6病院の活動内容を知ることができて、貴重な会議だった。 ★各病院の課題や、特異な取り組みを具体的に聞いて勉強になった。 ★名札から氏名を削除し部門名のみ表記の例や、お子さんお預かり手段の変更など、今後の課題としてメンバー間でシェアしたい。
コーディネーターの感想	◎ボラコの会にボランティアが参加したことで、直接他府県の活動が知れてよかった。 ◎毎月の会議でボランティアの声を拾うようにしているが、会議に参加できない人の声も大事。 ◎高齢者が増えている。外来で活動する際の、ボランティア用の低い椅子を準備したが、それぞれの健康状態にも注意が必要。	◎病院らしくない、子どもたちにとっての癒しの空間を目ざす。 ◎最近、「スマホをみながらのほったらかし」「やってくれて当たり前」の育児が目立つ。 ◎環境の変化に伴い、育児に対する意識も変わってきている。 気になったことはすぐに共有し、報告できる体制を整えている（ネグレクトなど）。	◎活動日が異なるボラ同士の交流の機会がこれまでなかったのでこの会議がよいきっかけになった。他の活動も見学したい ◎ご家族への言葉かけで気になることがあったらVCにまず報告するよう再確認できた ◎他病院のボラさんのお話は参考になった。どなたも利用者の為に工夫して活動されると実感した。	◎ボランティアさんたちの交流はとても新鮮で、全国的な連帯感のようなものも感じた。 ◎刺激があり、再認識や共感があり、「子どもたちの為ご家族の為」という大きなミッションが手に取るように伝わってきた感じでした。また活動のジレンマや課題についても、さらに検討していきたい。 ◎他施設で、虐待等に関連する話があり、とても参考になった。	◎外国人が増え、ポケットークをボランティア用に用意し利用している ◎新人が35名増えたのでトレーニングを強化している。外来班の中でお互いに教え合ったり、トラブル時の対応策を考えたり、グループとしての力をつけてきていて、大変頼もしく誇らしい。	◎ボランティアさんがネグレクトの疑いを感じた時の報告方法が確立していることがすばらしいと感じた。